

SDGs 推進に向けた産業施策の展開について

本区が、「SDGs 未来都市」及び「自治体SDGs モデル事業」に選定されたことを受けて、令和3年度に「自治体SDGs モデル事業」の中核的取組である「ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業」を効果的に推進するため、その拠点である「八広・東墨田エリア」及び「錦糸町エリア」を対象に「SDGs 推進事業に係る調査・分析」を実施した。この結果を踏まえ、SDGs 推進に向けた産業施策を展開する。

1 調査・分析結果に基づく各エリアの取組状況

(1) 八広・東墨田エリア

社会課題の解決に資する製品の「開発」を、地域ぐるみで応援していく拠点

東墨田会館1階の活用

ア 現況



地域との連携を図りながら社会課題解決につなげるものづくりを進めていくための場として、令和3年度に東墨田会館1階スペースの改修を行った。現在、区内企業の技術やノウハウを活用し、スタートアップ企業における社会課題解決に資する製品の開発支援を行っている。また、今年度から実施している「プロトタイプ実証実験支援事業」においても、この場をプロトタイプの開発・製造・改良等を行う拠点として位置づけている。

(2) 錦糸町エリア

錦糸土木事務所跡地に整備する施設の活用を含め、まちのポテンシャルを最大限に発揮させることにより、世界とつながる拠点

錦糸土木事務所跡地の活用に関する検討

ア 現況

錦糸土木事務所跡地の活用については、令和2年度にプロポーザルを実施した結果、「ものづくりのリーディング企業が中核となり、すみだの次代を築く新産業振興拠点として整備する」及び「世界につながり、すみだの地域に根付く新産業振興拠点を通じた、多彩な



【構造・規模】鉄骨造・地上7階建

【延床面積】 約7,085㎡

地域貢献を実現する」とした事業化案を採択した。同施設には、宇宙的規模での課題解決を図る株式会社アストロスケールの本社が入居することとなっており、同社との連携による新たな産業集積や民間企業との協業等の相乗効果も期待できる。これらの状況を踏まえ検討した結果、同施設の一部を区が借り上げ、SDGsの推進による産業振興を図ることを念頭に置き、借り上げの諸条件等について協議を行っているところである。

イ 施設の活用方針



(ア) 基本的な考え方

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の推進に寄与するとともに、錦糸町地域の特徴や課題を踏まえ、スタートアップ企業の集積・支援を切り口に、区内既存企業や産業支援機関等との連携、既存事業の持続的発展を見据えた地域産業活性化に資する機能を備えた施設として整備する。

(イ) 機能イメージ

